

- 問1 8世紀から9世紀にかけて、朝廷が東北地方への支配を拡大していく過程で、蝦夷の抵抗を抑え込むために坂上田村麻呂が任命された役職は何ですか。 (2020年 島根県公立入試 類似)
1. 征夷大將軍 2. 防人 3. 太政大臣 4. 摂政
- 問2 11世紀半ば、摂政・関白として権勢を誇った藤原頼通が、京都の宇治に極楽浄土の様子を再現しようとして建立した、阿弥陀如来を本尊とする代表的な建築物はどれか。 (2018年 鳥取県公立入試 類似)
1. 平等院鳳凰堂 2. 鹿苑寺金閣 3. 東大寺大仏殿 4. 慈照寺銀閣
- 問3 7世紀初め、聖徳太子が小野妹子らを派遣し、当時の中国の王朝から進んだ制度や文化を直接導入しようとした使節の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。 (2017年 山口県公立入試 類似)
1. 遣唐使 2. 通信使 3. 遣明使 4. 遣隋使
- 問4 8世紀末にあたる794年、桓武天皇が都を平安京へと移した主な理由として、当時の政治的背景に基づいた説明として適切なものはどれですか。 (2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 元（モンゴル帝国）による襲来に備え、防御に適した内陸部に都を構えるため 2. キリスト教の布教を制限し、幕府による全国支配を強固にするため 3. 平氏による武家政権を樹立し、海外貿易を活発にする拠点とするため 4. 仏教勢力が政治に介入することを避け、天皇中心の政治を立て直すため
- 問5 894年、唐の国力が衰えていることや往復の航路が危険であることを理由に、それまで約200年続いていた遣唐使の派遣を停止するよう宇多天皇に建議した人物は誰ですか。 (2026年 福島県公立入試 類似)
1. 聖徳太子 2. 藤原頼通 3. 平清盛 4. 菅原道真
- 問6 平安時代中期、藤原氏が自身の娘を天皇の妃（きさき）とし、その間に生まれた子が天皇になると、幼少期には摂政、成人後は関白という職について政治の実権を握りました。このような政治体制を何といいますか。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
1. 親政 2. 院政 3. 摂関政治 4. 執権政治
- 問7 平安時代末期、平氏の棟梁である平清盛は、武士として初めて太政大臣に就任し、朝廷内で強大な権力を振るいました。清盛が権力を維持するためにとった手法として、清盛の娘である徳子を高倉天皇の後（きさき）とし、その間に生まれた安徳天皇を即位させたことが挙げられます。このように、天皇の母方の親戚として政治の実権を握る立場を何といいますか。 (2023年 京都府公立入試 類似)
1. 執権 2. 摂政 3. 外戚 4. 関白
- 問8 平安時代中期、中央の朝廷から諸国に派遣され、現地の政治や徴税の実務を担っていた役職を何と呼ぶか、次の中から選びなさい。 (2016年 広島県公立入試 類似)
1. 戦国大名 2. 将軍から領地を与えられた大名 3. 国司 4. 県令
- 問9 平安時代の皇族と藤原氏のつながりを示す系図において、藤原道長が自分の娘である彰子などを次々と天皇の後（きさき）にし、その子供が天皇に即位する流れが繰り返されていることがわかります。藤原氏がこのようにして権力を独占した手法と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2017年 埼玉県公立入試 類似)
1. 武士団を組織して軍事的な圧力をかけ、太政官などの伝統的な行政組織を廃止するため 2. 天皇の母方の祖父（外戚）という立場を確立し、天皇を後見することで政治の実権を握るため 3. 天皇の位を廃止して、藤原氏自らが新しい王朝を開くための正当性を得るため 4. 遣唐使を通じて得た海外の知識を独占し、天皇を政治から遠ざけて知識層による共和制を行うため
- 問10 平安時代末期、武家として初めて太政大臣の地位に就いた平清盛が、兵庫の「大輪田泊」を修築して積極的に推進した、大陸の王朝との貿易について述べた文として正しいものはどれか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
1. 明の皇帝から日本国王に封じられたことをきっかけに、勘合という礼を用いて倭寇と区別しながら貿易を行った。 2. 元の侵攻に備えるため、大陸との貿易を厳しく制限し、博多に防塁を築いて沿岸部の警備を強化した。 3. 唐との貿易を再開し、遣唐使を通じて最新の律令制度や仏教文化を導入することで、中央集権国家の確立を狙った。 4. 宋との貿易を盛んに行い、輸入された大量の銅銭は日本国内で貨幣として流通し、経済の活性化につながった。
- 問11 12世紀半ばの保元の乱などで後白河天皇側に従って戦い勝利を収めた後、武士として初めて太政大臣となり政治の実権を握った人物として適切なものはどれですか。 (2025年 熊本県公立入試 類似)
1. 源頼朝 2. 藤原清衡 3. 平清盛 4. 平将門
- 問12 平安時代、藤原氏が天皇を補佐する重要な役職に就いて政治の実権を握った体制について、天皇が幼少のときには摂政、成人した後には関白としてその実務を担った政治形態の名称を選びなさい。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
1. 公武合体政治 2. 武家政治 3. 院政 4. 摂関政治
- 問13 平安時代の政治状況について、ドイツ出身のエマさんと日本の高校生が会話をしています。この時代の地方政治の実態を説明する内容として正しいものはどれですか。 (2023年 奈良県公立入試 類似)
1. 国司は中央から派遣される役人であったが、この時期にすべて武士へと置き換わり、封建的な主従関係が確立した。 2. 一部の有力な国司は受領と呼ばれ、任地に赴いて徴税に励む一方で、私的な蓄財を行うなど地方政治が混乱する要因となった。 3. 地方政治の乱れを解決するため、天皇が直接地方を統治する親政が始まり、国司制度は完全に廃止された。 4. 全国の農村で二毛作が一般化し、経済的に豊かになった農民が国司の権限を代行するようになった。
- 問14 藤原道長が「この世をば我が世とぞ思う…」と詠んだ時期の状況を、家系図や当時の役職の変遷から説明したものとして、正しい内容はどれですか。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)
1. 道長は4人の娘を次々と天皇の后に入れ、その子供たちを天皇に即位させることで、摂政や関白の地位を揺るぎないものにしていった。 2. 道長は天皇を退位させた後、自らが新しい血統の天皇として即位し、藤原氏による王朝を創設しようとしていた。 3. 道長は娘を貴族たちと結婚させることで、有力貴族をすべて藤原氏の養子とし、一族の人数を増やすことで議會を支配していた。 4. 道長は天皇の父方の親戚として、軍事指揮権を持つ征夷大將軍の職を世襲し、幕府を開く準備を進めていた。